鐘の鳴る丘　有明高原寮研修報告

主任児童委員
山根　波生

昨年、信州が冬支度に入るころ、北アルプスのふもと安曇野にある有明高原寮の視察研修に参加しました。フェンスも格子もない開放的な少年院という案内のとおり、緩やかな傾斜を利用して建てられた寮は景観を壊すこともなく、豊かな自然の中にありました。設備はすばらしいものでしたが、澄んだ空気の中で掃き清められたそれはどこか冷たさを感じさせていました。

出迎えてくれた寮長は実ににこやかに、そして穏やかな口調で少年院のことを「心の研修施設」と話していました。会議室で説明を拝聴した後は、寮長の案内のもと見学しました。寮生が家族と過ごす場が設けられているなど、社会復帰のための施設として充実した所であるという印象を受けました。

ラジオドラマ「鐘の鳴る丘」のモデルとして地域の人々に愛された伝統は引き継がれ、多くの方々の支援を受けています。町内会と協賛の運動会や、小学生の夏休みのラジオ体操を寮のグラウンドで行うなど、地元の人たちには当たり前の風景が彼らの自立を助けているそうです。支援や見守りということにとらわれず一緒に楽しむ自然体こそが、少年たちの心を癒し自分を見つめる機会を与えるのでしょう。

有明高原寮は初等・中等少年院のため、少年たちは2～6カ月の処遇で保護観察になります。寮長は「はじめは顔をまともに見られない子が、顔を上げ澄んだ瞳で退院していく変化を見るのは感動的である」と熱く話していました。この少年院に現在処遇中の約20人の少年たちも、自分で変わらなければならないことを学び、社会への芽を出すための努力を重ねています。有明高原寮は、そのための土となり肥やしとなって、彼らの成長を支えているのではないでしょうか。

やがて彼らに春が訪れ、花咲く日が来ることを願わずにはいられません。

身近な健全育成

寄居町青少年相談員
代表
相馬　一貴

私たち青少年相談員は、町内の小学生を対象にイベントの主催や、各地区の事業のお手伝いなどを主な活動としている青年ボランティアです。

主催事業を行うときに私たちがまず初めに考えること、それはその事業を通して子どもたちに何を感じ、何を得て欲しいかという目的です。昨年の事業では「協力して野外炊事を行い、共同作業の大切さを知る」や「他校の生徒と集い助け合うことによって、仲間の大切さを感じる」といった目的を挙げてみました。

昨今の地域社会では過疎化が進み、地域の連帯感の希薄やコミュニケーション不足が問題視されています。さらに、少子化などの現状も加わり、前述した目的のような経験をする機会が減ってきているように感じます。それは、地域に住む子どもたちの成長にも大きく影響するものです。私たちは子どもたちのよき友・よき相談相手として、そのような機会を創っていくことを意識しています。

また、健全育成活動には個人でできるものもあります。私は、その一つにあいさつがあると思います。

私が学生のころ、家へ帰る途中ですれ違った小学生が「こんにちは！」と元気にあいさつをしてくれたことがありました。このあいさつを聞いたとき、とても温かい気持ちになり、あいさつをすることの大切さを改めて感じたことを今でも覚えています。

この小学生に教えてもらった気持ちを、今度は自分が子どもたちに伝えるために、今では自分からあいさつをするように心がけています。たった一言のあいさつでも、こちらが誠意をもって接すれば子どもたちは必ずこたえてくれるはずです。そして、このような気持ちが地域に広がっていけば、子どもたちが笑顔で健やかに暮らせる地域社会になっていくのではないかと思います。

「こんにちは」

この一言から始まる健全育成もあるはずです。皆さんも、その第一歩を踏み出してみてはいかがでしょうか。

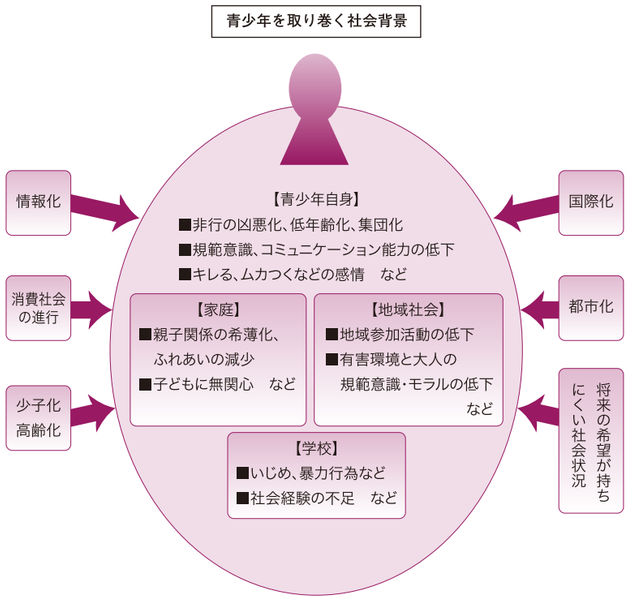
非行を防止するために

明るく豊かな社会をめざして

非行や犯罪のない社会を築き、子どもも大人も夢や希望を持って暮らせる社会を実現することは、すべての人々の願いです。しかし今日、少子高齢化、情報化、国際化などの進展に伴い、人々の意識が急激に変化する中で、少年非行の凶悪化、低年齢化、集団化などがますます顕著になっています。

子どもの非行の原因・背景

子どもたちは成長する中で、家庭・学校・地域社会などさまざまなところから、多くの影響を受けています。



子ども自身の問題

最近の非行の原因として、子どもが自分の感情をうまくコントロールできない、社会のルールを守るという規範意識が身についていないなどがあると指摘されています。また、子どもが自分の居場所を見出せなかったり、言葉の理解力や表現力の不足からコミュニケーションがうまくいかなかったりして、イライラや不安が非行となって表れることなども原因と考えられています。

家庭の問題

子どもの人格形成や人間関係の構築に、家庭が最も重要な役割を果たすと考えられています。しかし最近では、親子関係が希薄になり、自分の子どものことをよく知らなかったり、黙認したりする親が見受けられます。

学校の問題

子どもが成長する中で、家庭のほかに大きな影響を与える場所が学校と言われています。しかし「学校がつまらない」「授業が分からない」「友達ができない」「成績が良くない」「友達ができない」などの理由で、学校になじめず非行に走る子どもたちもいます。

地域社会の問題

かつては、地域社会全体で子どもたちを温かく見守り、時には厳しく注意していたという面がありました。しかし最近は、地域社会が子どもに無関心であるといわれています。

青少年の非行や犯罪をなくすために

青少年による凶悪事件の発生、非行問題が深刻となる中、健全な青少年を育成するために、家庭・学校・地域、そして社会が一体となって取り組むことが大切です。

家庭の役割

家庭は、家族とのふれあいや対話を通して、人としての生き方の基本を学ぶところです。そのためには、家庭で次のような取り組みが必要です。

- **家族の一員としての自覚や責任の育成**
- **家族団らんの重視**
- **ルールの大切さを教える**

学校の役割

学校は、教育活動を通して、豊かな人間性や社会性を養う場でもあります。それぞれの学校が、家庭や地域と連携し児童・生徒の「生きる力」を育むことが大切です。

- **子どもと地域の人々とのふれあいの場としての学校**
- **保護者、協力者の参加による多様な学習の推進**
- **心に響く道徳の授業の創造**

地域社会の役割

子育ては、個々の家庭の問題であるとともに、地域社会とも密接に関係しています。親や家庭だけでなく、地域で子どもを温かく見守り、育てていくことが大切です。

- **子育ての経験や知恵を生かした声かけ**
- **企業の青少年育成参加**
- **地域の環境改善**

青少年への声かけ運動

声かけ運動とは「青少年は地域で守り育てる」という気持ちで、大人が責任を持って、子どもたちを温かく見守りながら導いていこうという活動です。日常のあいさつなどの声かけを通じて、地域の子どもたちを非行や犯罪から守りましょう。

声かけのポイントは？

子どもたちの、いわゆる「たまり場」となりやすい場所はどこか？　何時頃が多いのか？集まって何をしているのか？などを事前に調べておくと、声かけするポイントがハッキリしてきます。

声かけのコツは？

自然な形で穏やかに接してください。たとえば「気を付けて」「早めに帰ろうね」など、子どもを気遣う言葉をかけましょう。また、親しみやすい言葉で接してください。立ち去ろうとする子どもを追いかけてまで、声かけする必要はありません。

非行が行われやすい場所は？

地域や季節、時間帯などにより必ずしも一定ではありませんが、一般的には次のような場所が考えられます。

- 街頭…繁華街などの路上、公園、祭などの催し会場およびその周辺など
- 娯楽施設…パチンコ店、ゲームセンター、カラオケボックス、漫画喫茶など
- その他…駅構内およびその周辺、スーパー、コンビニエンスストア、飲食店など

問題行為を発見したら？

非行や問題と思われる行為を発見した場合は、すぐに非行と決めつけるのではなく、スーパー等の店内であれば店の責任者に知らせる、相手が集団であれば交番や警察署へ連絡するなどの対処をしてください。子どもに対する思いやりの精神を基本にし、絶対に無理な行動は取らないようにお願いします。